会誌目次一覧

創刊号　（1972 年 10 月）

（論説）

窪徳忠「惜字紙の習俗と沖縄地方」

宮田俊彦「幕末、琉球に侵入した仏英両国の宣教師―その対応、斎彬・斉昭―」

石原道博「南島史の周辺―アジア史上の琉球（一）

（史料紹介）

岩生成一「日本南方諸国往復書翰（補遺）」

和田久徳「明実録の沖縄史料（二）」

第 2 号　（1973 年 4 月）

（論説）

大山梓「琉球処分と駐日公使」

仲田浩三「上代中部ジャワの国家形成」

渡辺欣雄「沖縄の親族研究：その方法論の検討（その一）」

第 3 号　（1973 年 10 月）

（論説）

宮田俊彦・和田久徳「明孝宗より琉球国中山王尚具への勅書」

笠原政治「神役組織再編成の局面―八重山・墨島の事例分析―」

（研究ノート）

牧野清「日露戦役と沖縄―久松五勇士とその足跡―」

（史料紹介）

和田久徳「明清桔案中の琉球国史料（一）」

第 4 号　（1974 年 4 月）

（論説）

生田滋「イエレミス・ファン・フリートの記録したアユタヤ王国の建国神話について」

喜舎場一隆「南島初期人頭税の周辺（二）」

（史料紹介）

駒井義明「Tung Hsi Yang K'ao（東西洋考）Vol. V　Lu Sung（呂宋）（一）」

第 5 号　（1974 年 10 月）

（論説）

岩生成一「鎖国後ジャカルタ残留日本人の故郷との音信」

建部恭宣「宗教建築物としての「神アシャギ」に関する研究」

上江洲敏夫「沖縄シャーマニズムの特質」

第 6 号　（1975 年 4 月）

（論説）

宮城栄昌「沖縄歴史に対する疑問―舜天王統の成立と尚清王の大島遠征に関して」

当間一郎「組踊諸本の考察」

久光由美子「十六世紀におけるカンボジアと院氏ベトナムの接触について―カンボジア年代記を中心として」

渡辺欣雄「沖縄の親族研究―その方法論の検討（その二）」

第 7 号　（1975 年 10 月）

（論説）

窪徳忠「中国の習俗と『四本堂家礼』」

三隅治雄「沖縄における男芸し女芸」

宮田俊彦「清朝の招諭と琉清貿易の盛況」

第 8 号　　（1976 年 5 月）

（論説）

横山學「江戸期琉球物刊本について」

伊藤良吉「沖縄・与那国島における水の神信仰について」

宮田俊彦「東京教育大学蔵『察温家譜』について」

第 9 号　　（1976 年 12 月）

（論説）

冨村真演「尚円即位の考察」

比嘉洋子「ウイリアム・アダムズ：琉球諸島航海日誌 1614 - 15 年」

第 10 号　　（1977 年 6 月）

（論説）

新城安善「「沖縄」における県市町村史（誌）　刊行の実態とその背景」

渡辺欣雄「沖縄の親族研究―その方法論の検討（その三）」

加藤正春「葬制と祖霊の形成―与論島の事例―」

藤田真理子「〈シマ〉の概念に関する一考察―宮古島城辺町保良部落の事例」

第 11 号　　（1978 年 1 月）

（論説）

菊池靖「双系制社会とリーダーシップ―ウィリピンの政治人類学―」

高桑史子「民族学からみた沖縄研究の概念とその展望」

嘉手苅千鶴子「『おもろさうし』書き改めと『混効験集』編纂について」

山下文武「薩摩藩治下における与人の上国について―「道統上国日記」を中心として―」

第 12 号　（1978 年 6 月）

座談会　「関敬吾・窪徳忠両先生の南島研究の回顧と展望」

（論説）

駒田和幸「福原実関係日誌」

深沢秀夫「奄美大島の家族・親族と位牌祭祀―奄美大島瀬戸内町久慈村の事例―」

第 13 号　（1979 年 2 月）

（論説）

生田滋「『おもろさうし』にみえる王名について」

宮田俊彦「最盛期の琉清貿易 その一―二集『歴代宝案』の初め巻一五までに沿って―」

鈴木正崇「八重山群島に於ける時間認識の諸相」

第 14 号　（1979 年 9 月）

（論説）

窪徳忠「奄美群島における中国的習俗」

原口邦紘「沖縄県における内務省社会局補助移民と移民奨励政策の展開」

大越公平「加計呂麻島芝（奄美）におけるカゲゼン習俗とカミオガミの行事―家族組織研究の一視点―」

第 15 号　　（1980 年 2 月）

（論説）

渡邊欣雄「客家人の正月習俗覚書：記述篇―台湾屏東県竹田郷頭器村を中心として―」

窪徳忠「奄美群島における中国的習俗―続考―」

宮田俊彦「毛泰昌と毛泰久―明末清初の琉球の外交―」

第 16 号　　（1980 年 11 月）

（論説）

田中武雄「室町幕府と琉球との関係の一考察―琉球国王に充てた足利将軍の文書を中心に―」

横山學「市中取締類集に見る琉球物板行願について―天保十三・嘉永三年の場合―」

高瀬恭子「南明の隆武二年における琉球国の遣使―宮田俊彦氏の所説に寄せて―」

第 17・18 号　　（1981 年 11 月）

＜特集　奄美＞

原口虎雄「奄美大島の耕地制度と農村の両極分解―ことに黒糖専売下の潰村と家人の発生について―」

山下欣一「ノロとユタ―研究の回顧と展望（一）―」

内田るり子「奄美のユタとその周辺―シャーマニズムと音楽―」

安斎伸「西阿室の生活変動と宗教」

小川学夫「奄美民謡における詞型・曲型・反復型の変遷―琉歌調の成立を考えるために」

加藤正春「双系社会の親族体系―与論島における親族再編成の構造―」

中山 清美「奄美大島の先史遺跡」

座談会「奄美研究の現状と展望」

（論説）

J・クライナー「L・ドゥーダーラインの奄美資料」
小島清志「宮古島における天理教受容と基層宗教」
深沢秀夫「シマ社会における共食慣行に就いての一考察―奄美の三献と一重一瓶を手掛かりに―」

第 19 号　（1982 年 2 月）

（論説）
中本正智「原琉球語をたどる―鍬・蜻蛉・蚊など―」
山下欣一「奄美の民族に関する既刊文献の状況」
山路勝彦「台湾サデック族の義兄弟と子どもの認知」
宮田俊彦「大島に漂流した清商二例―二集歴代宝案に拠る―」

第 20 号　（1982 年 9 月）

（論説）
横山學「江戸時代の「琉球」認識―新井白石・白尾国柱・伴 信友―」
藤井せい子「沖縄県宮古島の行商―ペザント・エコノミーの視点から―」
玉木順彦「現行習俗からみた沖縄の〈火の神〉信仰の地域差」
崎原貢「ハワイ沖縄県人の団結力」
金泰能（大口 里子訳）「琉球と済州との関係」

第 21・22 号　（1983 年 9 月）

（論説）
宮田俊彦「徳川齊昭と島津齊彬―琉球渡来佛英人事件―」
玉置泰明「伊良部農村に見る伝統的絆の衰退―シマ社会の現在―」
田村敏和「綱引由来説話と其の背景―沖縄本島大里村の調査を中心に―」
小島清志「郷愛会組織と母村の交渉―加計呂麻島西阿室の事例―」
石川雅信「奄美大島大和村の社会組織」

山内健治「トカラ列島・黒島の家族の構造―隠居制家族と位牌祭祀をめぐって―」

第 23 号　（1984 年 4 月）

（論説）

窪徳忠「石敢当からみた中国・沖縄・奄美」

高桑史子「スリランカのシンハラ漁民社会概観―Alexander, P. の研究から―」

福岡直子「豊年祭についての一考察―奄美大島宇検村芦戸を例として―」

第 24 号　（1984 年 9 月）

（論説）

宮田俊彦「琉球から清朝への献上武器」

岸秋正「琉球の稀書について」

加藤正春「双系社会における親族ネットワークの形成と機能」

山内健治「黒島の年序体系と親族組織」

林研三「村落の統合と両墓制―群馬県子持村淵上の場合―」

第 25・26 号　（1985 年 9 月）

（論説）

野口鐵郎「那覇久米村の天妃廟」

黒田安雄「天保改革期の薩摩藩の唐物商法」

紙屋敦之「七島郡司考―明清交替と琉球支配―」

大石圭一・原田武夫・張森湧「周益湘著『道光以後中琉貿易的統計』の研究

内田晶子「向達校注『両種海道針経』中の「順風相送」について」

第 27 号　（1986 年 4 月）

（論説）

新崎盛敏「明清朝廷から琉球王に贈られた竜衣・竜文について」

宮田俊彦「琉球国中山王尚真と日新斎島津忠良」

真喜志瑤子「琉球極楽寺と円覚寺の建立について（一）―本土との交流の二つのかたち」

比嘉朝進「沖縄の梵字碑」

第 28 号　（1986 年 9 月）

（論説）

仲田浩三「ジャワ出土ムンドゥワン鋼板刻文」

安渓遊地「西表島のヤマノイモ類―その伝統的栽培法と利用法―」

石井正敏「『肥後守祐昌様琉球御渡海日記』」

平田守「琉明関係における琉球の馬」

安岡昭男「法政大学沖縄文化研究所の刊行物について」

第 29 号　（1987 年 4 月）

（論説）

岸秋正「続・琉球の稀書について」

真喜志瑤子「琉球極楽寺と円覚寺の建立について（二）―本土との交流の二つのかたち」

津波古万里子「沖縄の祭祀儀礼にみるノロの一研究―本島北部の事例研究―」

第 30 号　（1987 年 9 月）

（論説）

藤崎康彦「沖縄のユタと「トランス」」

島村幸一「オモロにおける「連続部」最終節部の表現」

長沢利明「台湾アミ族における豊年祭歌舞曲」

第 31 号　　（1988 年 4 月）

（論説）　特集 奄美大会

新崎盛敏「琉球からの昆布輸出問題の周辺（一）」

平和彦「長崎往来蘇州船と奄美諸島」

東喜望「土持政照と『南洲翁遺事』」

橋本千栄子「琉球の神女の衣裳―桐衣について―」

山田尚二「甘藷の南島への普及」

第 32 号　　（1988 年 9 月）

（論説）

崎原貢「アメリカの沖縄研究」

喜多村正「沖縄の間中と遠祖御願」

石井昭彦「沖縄の離島社会における祖先観と祭祀」

第 33 号　　（1989 年 4 月）

（論説）

黒田安雄「薩摩藩の唐物商法と長崎会所」

渡邊欣雄「漢族の風水知識と世界観―墓地風水に関する議論をめぐって―」

原田禹雄「西表島と光田健輔」

第 34 号　　（1989 年 9 月）

（論説）

宮田俊彦「飾太刀の清朝への特殊進貢」

北川泰三「沖縄県出身の同郷者集団―横浜市鶴見区の調査から―」

塚越喜美枝「高校「日本史」教科書における「沖縄」」

（史料）
和田久徳「李朝実録の琉球国史料補遺」

第 35 号　（1990 年 6 月）

（論説）
望月 雅彦「古賀辰四郎と大阪古賀商会」
杉井信「出自集団概念の適用限界―フィリピン・ボントック・カンカナイ両社会の分析をめぐって―」
長沢利明「久米島の綱引き祭見学記」

（史料）
原田禹雄「翻刻資料 四本堂詩文集」

第 36 号　（1990 年 10 月）

（論説）
土肥祐子「『諸蕃志』の著者・趙汝遺について―最近発見された墓誌―」
比嘉良洋「琉球における支配構造の一考察―特に典制度を中心として―」

（史料）
和田久徳「李朝実録の琉球国史料（訳注）（一）」

第 37 号　（1991 年 6 月）

（論説）
笠原政治「神役制の崩壊した村―伊平屋島・我喜屋の調査から―」
木村政昭「徳之島大田布岳山頂の線刻画と為朝伝説」

田中則雄「東アジア、東南アジアの醤油と中国醤油」

（史料）
和田久徳・高瀬恭子・内田晶子・真喜志瑤子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（二）」

第 38 号　（1991 年 10 月）

（論説）
國吉菜津子「琉球における陶磁器貿易の一考察」
石川康浩「神隠伝承の研究―屋久島の事例を中心に―」

（史料）
和田 久徳・高瀬 恭子・内田晶子・真喜志瑤子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（三）」

第 39 号　（1992 年 6 月）

（論説）
川崎史人「対比と収斂の世界観―トカラ列島悪石島におけるトンチとヒガシをめぐって―」
木村政昭「邪馬台国の位置に関する一考察―海洋学的視点をベースとして―」
瀬戸口律子「琉球官話課本の研究（二）― ≪尊駕―学官話≫」

（史料）
和田久徳・高瀬恭子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（四）」

第 40 号　（1992 年 10 月）

（論説）
瀧川義一「『質問本草』編者、呉継志をめぐって」
藤崎康彦「「カミダーリィ」考―精神医学関係文献の検討を通じて―」

望月雅彦「玉置半右衛門と鳥島開拓―明治期邦人の南洋進出の視点から―」
森崎成城「池間島の漁業」

第 41 号　（1993 年 5 月）

（論説）
平和彦「近世中国の海盗と琉球船舶」
渋谷研「沖縄の開拓村落に見る世界観―在来村落との関係に主眼を置いて―」
塩月亮子「沖縄の死霊観―中国・韓国との災因論的比較研究―」

（史料）
原口邦紘「琉球藩郵便設立一件書類」

第 42 号　（1993 年 10 月）

（論説）
原田禹雄「琉球に関する二つの考察―皮弁と国門―」
佐々木伸一「ウプアムその後―ウカサヤーの祭祀をめぐって―」
真喜志瑤子「史料にみる琉球の弁財天信仰」

第 43 号　（1994 年 5 月）

（論説）
知名定寛「琉球の遊女と真宗」

（史料）
和田久徳・高瀬 恭子・内田晶子・真喜志瑤子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（五）」

第 44 号　（1994 年 11 月）

（論説）
山下重一「宮古島人頭税廃止請願と中村兄弟」
瀬戸口律子「琉球官話課本の言語―課本の中の福州語―」
木村政昭「琉球弧の陸橋について―最近の潜水調査結果をふまえて―」
下地安広「浦添グスク採取の鬼瓦について」
近藤健一郎「日清戦争後の沖縄における「風俗改良」運動の実態―「父兄懇談会」の開始を中心に―」

（史料）
和田久徳・高瀬 恭子・内田晶子・真喜志瑤子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（六）」

第 45 号　（1995 年 5 月）

（論説）
宮本義己「室町幕府と琉球使節―琉球船貢物点検問題の実相とその意義―」
和田正彦「漂流民の眼からみた十八世紀後半のヴェトナム」
森田真也「神役と疑似的神役―その正統性をめぐって―」
石川浩之「シマ社会と儀礼―大宜味村塩屋湾周辺におけるシマの構造―」

（史料）
和田久徳・高瀬 恭子・内田晶子・真喜志瑤子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（七）」

第 46 号　（1995 年 10 月）

（論説）
喜舎場一隆「唐藩の日本乞師と薩琉関係」
安倍宰「沖縄県伊良部島における時空間観念の二重構造」
渋谷研「ひととしての女性神役―シジイデオロギーと霊成をめぐる覚え書き―」

（史料）
和田久徳・高瀬 恭子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（八）」

第 47 号　　（1996 年 4 月）

（論説）

山下重一「三浦按針（ウィリアム・アダムス）の琉球航海記」

和田正彦「廣南（クアン・ナム）の院（グエン）氏と日本との関係について―十六世紀後半から十七世紀前半を中心に―」

千葉恵菜「近世初頭の「ばはん」問題と島津氏―対明交渉の関係から―」

坂井正人「非巫病・継承型男性民間医療従事者と村落祭祀間構造：鹿児島県大島郡徳之島の事例より」

（史料）

和田久徳・内田晶子・高瀬 恭子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（九）」

第 48 号　　（1996 年 10 月）

（論説）

原田禹雄「明・清時代の琉球国王の冠服」

近藤健一郎「日清戦争直前の沖縄教育政策―『一本書記官取調書』（一八九四年）を中心に―」

渋谷研「ムイ（社）のある生活」

瀧川義一「『琉球物産志』の一考察」

第 49 号　　（1997 年 5 月）

（論説）

山下重一「旧慣温存政策の定着―上杉県政から岩村県政へ―」

近藤健一郎「国家総動員体制下の沖縄における標準語励行運動」

原田禹雄「尚元の冊封の日付」

喜舎場一隆「古代政権と南島（二）」

（史料）
和田久徳・土肥祐子・高瀬 恭子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（十）」

第 50 号　（1997 年 10 月）

（論説）
花城可裕「蔡温の「上運天村過嶽祖父相有敬奮宅哭先室相氏」（上運天村にて岳祖父相有敬の旧宅を過り先室相氏を哭す）詩について」
喜合場一隆「古代政権と南島（三）」
原田禹雄「時中をめぐって」

（史料）
和田久徳・高瀬 恭子・吹抜悠子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（十一）」

第 51 号　（1998 年 5 月）

（論説）
松浦章「清乾隆五十七年貢期の琉球進貢と鄭文英の客死」
浅井易「＜旅＞の履歴―沖縄のある個人の可動性に関わるライフヒストリー分析―」
徳永和喜「薩摩藩の唐通事について」

（研究ノート）
久永元利「近畿地方および奄美諸島の石敢當について」

（史料）
和田久徳・高瀬 恭子・内田晶子・土肥祐子「李朝実録の琉球国史料（訳注）（十二）」

第 52 号　（1998 年 10 月）

総目録　付大会・月例研究会一覧

第 53 号　　（1999 年 7 月）

（論説）

喜舎場一隆「和田久徳先生を悼む」

山下重一「琉球英語通事の系譜」

松浦章「『上海新報』に見る琉球國記事」

石原清光「口頭伝承に示された村落空間―奄美諸島与路島の事例から」

第 54 号　　（1999 年 11 月）

（論説）

渡辺美季「清代中国における漂着民の処置と琉球（１）」

花城可裕「朱熹の「偶成」詩と蔡温―『琉球詠詩』及び『伊呂波歌並詩文綴』所載の蔡温の漢詩について」

福 寛美「島と国」

第 55 号　　（2000 年 9 月）

（論説）

山下重一「ベイジル・ホールのライラ号航海記」

松浦章「朱印船の中国・朝鮮漂着をめぐって」

渡辺美季「清代中国における漂着民の処置と琉球（２）」

第 56 号　　（2000 年 12 月）

（論説）

知名定寛「古琉球王国と仏教―尚泰久・尚徳・尚真の仏教政策を中心に―」
福寛美「綱引きの宇宙」
伊藤幹彦「台湾抗日思想の一考察―台湾独立派の抗日思想―」

第 57・58 号　（2001 年 11 月）

（論説）
山下重一「ゴービルの『琉球諸島に関する覚書』（1758 年）について」
西村眞次博士南島関係遺稿（２題）
（その１）「ペーロンの構造とその由来」
（その２）「沖縄のマジック―『琉球古今記』を読みて―」
喜合場一隆・尾比久たきこ「琉球国の三山統一についての一考察」
伊藤幹彦「台湾地方派閥史の研究―台湾戦後初期史を中心に―」
伊是名尚子「第二次大戦後における沖縄移民史の一考察―琉球政府によるボリビア計画移民を中心として―」

第 59 号　（2002 年 8 月）

（論説）
松浦章「清代大陸産豚の台湾搬出について」
湯熙勇「清代前期中国における朝鮮国の海難船と漂流民救助について」）
曾煥棋「清代使琉球冊封使趙文楷について」

（資料）
山下重一「ベッテルハイムの琉球滞在中における英艦来航に関する資料」

第 60 号　（2002 年 11 月）

（論説）
松浦章「清末の汕頭と日本統治下台湾との航運関係」

下鳳奎「20 世紀前半タイ国における台湾籍民の活動」
湯熙勇「清代中国におけるベトナム海難船の救助方法について」
曾煥棋「清代使琉球冊封使林鴻年について」
伊藤幹彦「台湾社会主義思想史―連温卿の政治思想―」
木崎弘美「琉球廃藩沖縄県の歴史的意義―内務省における琉球関係写本作成の視点から―」

第 61 号　（2003 年 4 月）

（論説）
下野敏見・橋口尚武「種子島の小型海獣葡萄鏡」
瀧川義一「「中山伝信録物産考」の一考察」
春名徹「近世日本船の台湾漂着―「ちょぶらん島漂流」を中心に」

第 62 号　（2003 年 10 月）

（論説）
宮本義己「室町幕府の対明断交と日琉貿易―続添鴻宝秘要抄を通して―」
ジョージ・スミス（山下重一訳）「琉球諸島」
熟美保子「幕末琉球の外圧に対する祈祷政策」
山内健治「パティローマ島の変化と不変の三〇年―社会構造を中心に―」

第 63 号　（2004 年 4 月）

（論説）
松浦章「朝鮮使節の琉球時事より得た台湾鄭経・琉球情報
山下重一「英艦サマラン号の琉球・長崎来航」
清水有子「一七世紀初頭スペイン領フィリピン政府の日本関係文書」
近藤健一郎「学校記念誌にみる近代沖縄における方言礼」

第 64 号　　（2004 年 11 月）

（論説）

清水紘一「ポルトガル人の種子島初来年代をめぐって―日欧交渉の起源・補遺―」

井谷泰彦「「方言札」と沖縄の村落共同体」

深瀬公一郎「近世日琉関係における外交・貿易システム―鹿児島琉球館における聞役・用聞の役割」

岡部敏和「アルクメーヌ号の琉球来航に関する一考察」

伊藤幹彦「日本植民地化の台湾政治思想―泉哲の政治思想を中心に―」

第 65・66 号　　（2005 年 8 月）

（論説）

清水紘一「ザビエル滞日期（一五四九～五一）の入明構想」

春名徹「近世漂流民送還制度の終焉」

原口邦紘「一八七五年の琉球問題―内務卿大久保利通「琉球藩処分」建議の再検討―」

松浦章「清代朝鮮使節の臺灣情報・林爽文の乱について」

曾煥棋「清代使琉球冊封使周煌について」

山田仁史「台湾原住民の地震についての諸観念（Concepts and Concerning the Earthquake among Taiwan Aborigines）」

伊藤幹彦「林献堂の政治思想―台湾独立思想と漢民族意識―」

木村政昭「沖縄の海底遺跡」

卞鳳奎「日本統治下における上海の台湾人の動向」

角南一聡郎「東アジアにおける指輪習俗」

河村裕之「台湾における客家の自己主張運動」

潘朝陽「台湾と日本並びに周辺地域の地理歴史と文化学術シンポジウムの所感」

邱榮裕「清朝における客家人の移民台灣の問題　（Taiwan's Hakka in Qing Times: Emigration Studies.）」

史康迪「台湾から中国への海底通信ケーブルの歴史―中国大陸のマスコミ報道の検視と海底通信ケーブルの新発見―　（History of Formosa's Cable to China: As seen through PRC media accounts, & recent cross strait cable findings.）」

邱彦彬「恒常と無常‥朱天心の古代台北府城評論に見る空間と組織と政治経済の関係

（Immutability and Mutability: The Space, Boy and Political Economy in Tien-Hsin Chu's "Ancient Capital".）」

鄭政誠「日治時期における台湾総督府が内地観光を入れて理蕃政策（1897～1930）（Visit in Japan－Another Way to Control Taiwan Aborigines under Japanese Ruled （1897～1930）」

陳國彦「脣歯擦音"ｆ"のない世界 （The World of lacking labio-dental "f".）」

呉進喜「六堆客家地名の命名と特性 （The Characters of Place-name in Ping-dong Hakka's Area, Taiwan.）」

葉爾建・陳國川「台湾総督府の蕃地政策と環境変遷に就て―頭前渓上流地域の例 （The Influence of Taiwan Governor's Office Aboriginal-areas-management-policy on Environment during the Japanese era: The case of Thou-Chhian upstream area in Northern Taiwan.）」

（シンポジウム）

山路勝彦「シンポジウム「＜台湾原住民＞研究の回顧と現状」に寄せて」

原英子「台湾アミ族チカソワンの分裂と帰属意識」

宋秀環「霧社事件以後從對事件的認識與認同談起」

山本芳美「柳田國男と台湾原住民研究」

宮岡真央子「ツォウ民族誌を読む」

第 67 号　（2006 年 5 月）

（論説）

松浦章「清代福建・沙埕船の長崎来航について」

三上絢子「奄美の儀礼的シマ歌にみる地域性―歌の展開を中心にその歴史的背景―」

清水有子「ポルトガル人日本初来に関する基礎的問題」

卞鳳奎「「満州国」と北京における台湾籍民の動向」

第 68 号　（2006 年 10 月）

（論説）

高橋誠一「琉球における集落景観と伝統的地理観」

長森美信「一七三九年朝鮮漂着民が見た琉球―天理大学付属天理図書館所蔵『増補耽羅志』の漂流関係記録をめぐって―」
岡本訓明「近代那覇における都市構造」
王力「十九世紀後半における台湾樟脳の海外販路―日本領事報告の調査を中心に―」
赤嶺逸男「沖縄と日本各地の石造物についての一考察（ヒンプンを中心として）」
三上絢子「文化遺産としての「歌掛け」―徳之島の「田植歌」を中心として―」
卞鳳奎「日本統治時代台湾の日本人移民情況―花蓮県の吉野村を中心にして―」
宮崎聖子「日本植民地下の台湾における青年団の終焉―青年学校、勤行報国青年隊、青年特別錬成所との関連で（1941-45 年）

第 69 号　（2007 年 4 月）

（論説）
山下重一「ベイジル・ホールのナポレオン会見記」
中畑充弘「北部沖縄の葬制と他界観・再生観―沖縄・本部町備瀬の事例を中心に―」
松浦章「日本台湾統治時代の西洋型帆船」）
曾煥棋「明清時代中国に朝貢する琉球国に対する薩摩藩の姿勢と態度」

第 70 号　（2007 年 11 月）

靜宜大学連合学術検討会論集
（論説）
中谷伸生「一九三〇年代の日本画と台湾の画家陳進―植民地支配のイデオロギーと美術―」
土肥祐子「屠応埈が冊封使陳侃に贈った詩、序―屠応埈『屠漸山文集（蘭暉堂集）』より―」
曾煥棋「清代初回の琉球官生梁成楫・蔡文溥・阮維新について」
松浦章「日本統治時代の「台湾船籍規則」について」
卞鳳奎「日本統治時代の基隆フランス軍人基園引渡問題の探求」
宮崎聖子「「内台共婚」と植民地における台湾人女子青年団の位置づけ」
大谷渡「一九四五年米軍空襲下の台湾」
森谷裕美子「フィリピンにおける先住民族の土地権」

原英子「台湾原住民的族群認同與傳統信仰―透過眾神的族群邊界與語言問題來討―」
塩月亮子「シャーマニズムと近代―意識変容に対する評価の変遷を通して―」
三上絢子「戦後米国統治下の奄美―商業圏の形成過程―」

第 71 号　（2008 年 6 月）

（論説）
山下重一「クラプロートの琉球紹介」
松浦章「清の冊封琉球船を襲った海賊」
澤井真代「石川島川平における女性神役「ツカサの」就任過程―司祭者と神の関わり方の問題として―」
喜舎場一隆「古代における南島」

第 72 号　（2008 年 11 月）

（論説）
清水紘一「長崎奉行あて将軍発給文書をめぐって」
松浦章「嘉靖十三年（一五三四）朝鮮使節が北京で邂逅した琉球使節」
王亦錚「福建泉州の石敢当について」
王頂倨「台北大稲埕と西川満の文学」
原英子「台湾系仏教・仏光山の海外展開と日本からの視点」
蔡雅芸「江戸時代唐話資料に見られる漳州語」

第 73 号　（2009 年 3 月）

（論説）
山下重一「井上毅と沖縄」
矢野美沙子「王統交代期の首里王府について」
蛯原一平・安渓遊地「明治末期の西表島における生業活動―役人日記『必要書』を手がかりとして」

第 74 号　　（2009 年 12 月）

（論説）

松浦章「清末の福州琉球館」

卞鳳奎「日本台湾統治時代における台湾人の八重山諸島への移民活動」

林敏容「日本統治時代における台湾塩の対日本、朝鮮への輸出」

王亦錚「福建泉州の風獅爺と沖縄」

第 75・76 号　　（2010 年 11 月）

（論説）

森谷裕美子「フィリピンにおける国法と先住民族社会の慣習法」

宮崎聖子「青年期的教育及戰爭對男性特質的影響―以日治時期臺灣爲」

松浦章「中国・福州の琉球関係史跡」

鄭潔西「一六世紀末明朝の対日本情報システムの一環となった琉球国」

岑玲「清代襠案に見る琉球漂流船の積荷―米穀を中心に―」

土肥祐子「南宋のアラブ商人蒲亜里の活躍」

大島立子「元朝市舶司機構の変遷」

田村慶子「シンガポールの南洋大学―「権力に祝福されない大学」の 25 年―」

下野寿子「対外開放時代の僑務工作に関する一考察―福建省における地方政府の取り組み―」

第 77・78 号　　（2011 年 12 月）

（論説）

清水紘一「近世日本の「鎖国令」覚書」

池谷望子「琉球の国際貿易の開始」

塩月亮子「沖縄における聖地巡拝慣習と観光」

矢野美沙子「近世琉球における首里王府の歴史像」

岑玲「清代襠案に見る琉球漂流船の積荷―芭蕉布を中心に―」
松浦章「清代福州から那覇にもたらされた紙」
林敏容「日本植民時期における台湾米の沖縄への移出」
下野寿子「福建省の対外開放における台湾の位置づけ―地方幹部の視点から―」

第 79・80 号　（2013 年 3 月）

（論説）
春名徹「再読―ベイジル・ホール「朝鮮・琉球航海記」」
西里喜行「中琉関係史における尚泰の冊封問題（再論）―琉球側の対応を中心に―」
宮崎聖子「植民地期台湾における国語保育園」
森谷裕美子「フィリピン北部ルソン日系人社会の歴史的位相」
卞鳳奎「移民者の新天地：日本統治時期の臺北市における鹿児島縣出生者の現状」
池田辰彰「台湾総督府職員録から見た職員出身地と台湾人登用分析―明治 36 年から大正 2 年―」
林敏容「日本植民地時代における台湾塩のフィリピン、英領北ボルネオへの輸出」
土肥祐子「宋代の南海交易品について―『宋会要』職官 44 市舶より―」
松浦章「1809 年に呂宋から帰国した琉球人」
岑玲「清代中国に漂着した琉球民間船」

第 81 号　（2013 年 11 月）

（論説）
池谷望子「尚清の冊封と陳侃の琉球出使をめぐって」
土肥祐子「宋代の舶貨・輸入品について―紹興三年と十一年の起発と変売―」
春名徹「島津家文書のなかの「ブロートン探検隊」絵図とその背景―≪親切な琉球人≫言説再考―」
岑玲「清代襠案に見る琉球漂流船の積荷―塩を中心に―」
卞鳳奎「エリート出現の時代―『臺湾人士鑑』中の日本人と蔓湾人官民を中心として―」
林敏容「日本統治時代における台湾米の改良」
松浦章「近海郵船会社の台湾航路について」
安倍宰「沖縄・伊良部島の政治人類学―「範型」概念を中心として―」

原英子「釜石シーウェイブス RFC ジュニアの台湾でのラグビー交流と日本郵船―東日本大震災被災地への支援の背景―」

第 82 号　（2014 年 12 月）

（研究ノート）

安溪遊地・安溪貴子・弓削政己・今村規子「国立台湾大学図書館・田代安定文庫の奄美史料―『南島雑話』関連資料を中心に」

（論集：特集 台湾基隆大会）

王竹敏「20 世紀前葉におけるタイ国華字新聞に見る華商保険会社」
中谷伸生「陳進と一九三〇年前後における日本画（膠彩画）」
春名徹「清國から海難救助で勲章を受けた日本人」
林敏容「日本統治時代における台湾農業の近代化」
池田辰彰「台湾総督府が登用した台湾人」
池谷望子「琉球馬の中国への朝貢とその形質について」
松浦章「大阪商船会社の「台湾航路案内」について」
下野寿子「大陸からみた三通―統一戦線上の位置づけと実態」
森谷裕美子「植民地支配がフィリピン先住民族社会に与える影響」
田村慶子「東南アジアの国境観光―タイ・ミャンマー、シンガポール・マレーシア国境を事例として―」
土肥祐子「宋代の南海交易品乳香について―『中書備対』の記述より―」

第 83 号　（2015 年 11 月）

（論文）

中谷伸生「文化交渉から見る日本と台湾の膠彩画（日本画）―陳進と鏑木清方の邂逅―」
土肥祐子「南宋期、最初の官殿での占城（チヤンパ）の朝貢―泉州出発、都での儀礼、帰路につくまで―」
矢野美沙子「古琉球期首里王府の海域支配」
松浦章「日本郵船会社の台湾航路案内」
宮崎 聖子「植民地期台湾における田中一二の青年言説と実践」

下鳳奎「日本統治時代臺北州立宜蘭農林学校の社会的貢献」
池田辰彰「日本台湾統治時代前期の宜蘭における経済発展」

（研究ノート）
中島小巻「「東西融合」絵画の形成―梅原龍三郎と陳澄波―」

（書評）
松浦章
平尾良光・飯沼賢司・村井章介編『大航海時代の日本と金属交易』別府大学文化財研究所企画シリーズ「ヒトとモノと環境が語る」、思文閣出版、2014 年
曽炊棋
琴玲著『清代中国漂着琉球民間船の研究』裕樹書林、2015 年

松浦章「琉球史研究の重要な資料集」

第 84 号　（2016 年 11 月）

（記念講演）
松浦章「近代沖縄の汽船航路」

（論 文）
中谷伸生「宇田荻邨における南島への憧れ―不在としての沖縄」
山本正昭「琉球列島における集落形態の変遷とその要因に関する考察―中世相当期から近世期にかけての集落遺跡―」
年旭「嘉靖三十七年琉球冊封使呉時来の密命について」
前田勇樹「沖縄県「初期県政」に関する同時代の新聞・雑誌記事について」
真喜志瑶子「古琉球の官人ヒキの職務と信仰―久米島出自のヒキとオモロ」
平良勝保「近世末期先島の貢布と市場・人口問題」
卞鳳奎「日本植民時期の基隆と八重山間の非合法活動（1895-1943）」
原英子「台湾バナナのイメージの形成に関する問題―日本統治時代の菓子「新高バナナキャラメル」と台湾バナナ―」

（研究ノート）
濱地龍磨「古琉球期における相続性についての一考察―首里系家譜に含まれる逸文記事の分析を中心に」

（新刊紹介・書評）
松浦章
上原兼善著『近世琉球貿易史の研究』岩田書院、2016 年

第 85 号　　（2017 年 11 月）

（論 文）

中谷伸生「台湾イメージの選択と陳進の膠彩画（日本画）」
土肥祐子「乳香考―李金の乱（1165 年）と科買」
松浦章「日本統治時代台湾の漁業と日本人―鰹漁業を中心に」
真喜志瑶子「「おもろさうし」の首里大君―古琉球のヒキの職務と信仰」
森谷裕美子「フイリピン植民地支配下の人類学的研究」
卞鳳奎「日本統治期の台湾在住日本人の台湾イメージ」
池田辰彰「日本統治時代台湾ラグビー発展史―台湾の中等学校ラグビー史―」
豊田郁「土田麦僊《海女》における南国のイメージ―ゴーギャン受容をめぐって」

第 86 号　　（2018 年 11 月）

（論文）

中谷伸生「陳進と膠彩画（日本画）の文化交渉」
池谷望子「琉球貢使の用いた呈と稟について」
松浦章「大連汽船会社の台湾航路開設と高雄・丸一組」
土肥祐子「数学書に記された南海交易品―『数書九章』の「推求物價」より―」
石黒ひさ子「墨書陶磁器からみた「綱」」
森谷裕美子「日系人とアジア太平洋戦争」
下野寿子「台湾の農業と台湾産果物の対中輸出からみた両岸関係」
卞鳳奎「日本統治時代台湾の漁業発展に寄与した日本籍漁業移民と知識人」
王俊昌「日本統治期に於ける台湾のパイナップル貿易」
欒佳琳「日本統治期における蘇澳地区の観光発展」

（書評）

福寛美
　越智 郁乃著『動く墓　沖縄の都市移住者と祖先祭紀』森話社、2018 年

第 87 号　　（2019 年 11 月）

（論文）

春名徹「台湾漂着日本船の掠奪事件」
池谷望子「万歴四十年の王銀詐取事件とその背景」
真喜志瑤子「古琉球の貢納儀礼説話とオモロ歌唱者」
イゴル コロチンスキ「奄美諸島の在地勢力と習慣の再検討―道之島役人の成立の事例から」
松浦章「日本統治時期の臺灣産柑橘類の海外輸出」
石黒ひさ子「「南海I号」搭載墨書陶磁器について」
土肥祐子「元代の数学書に記された南海交易品―『算学啓蒙』、『四元玉鑑』より」
宮崎聖子「植民地期台湾における内地人女子青年団―台北女子青」
卞鳳奎「清朝漳州郭氏一族の台湾移民の状況―郭宗嘏を中心にした研究」
王俊昌「日本統治時代の基隆漁港の産業集落の形成と発展」
池田辰彰「日本統治時代初期台湾の社会事業の構築と発展」

（書評・新刊紹介 ）

春名徹
　浜川仁解説・注釈『アヘンとユートピア―イギリス艦来琉(1816年)をめぐる考察と史料紹介』
福寛美
　東資子『治癒と物語―南西諸島の民俗医療』
松浦章
　高良倉吉・西里喜行・赤嶺守・豐見山和行主編『國立臺灣大學圖書館典藏　琉球關係史料集成』の第一～五巻の刊行
松浦章
　琉球船と首里･那覇を描いた絵画史料研究会編『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究』

第 88 号　　（2020年 11 月）

（論文）

中谷伸生「陳進の人物画・風景画・草花画をめぐる美術批評」
松浦章「日本統治時代の台湾産カジキマグロの大連への輸出」
卞鳳奎「日本統治期の台湾鉱山労働者の四表島における活動実態」
森崎成城「「南蛮」と呼ばれる琉球の無粕陶器に関する考察」
池田辰彰「日本統治時代台湾ラグビー発展史―大正２年（1913）から昭和６年（1931）－」

（書評）

福寛美

久万田晋・三島わかな編『沖縄芸能のダイナミズム　創造・表象・越境』七月社、2020年

（新刊紹介）

松浦章

謝編必震主編『万国津梁―福建與琉球（図説　福建輿海上絲綱之路）』福建教育出版、 2019年

松浦章

中島楽章著『大航海時代の海域アジアと琉球　レキオスを求めて』思文閣出版、2020年

第 89 号　（2021 年 11 月）

（論文）

松浦章「琉球国へ舶載された清代中国の絹製品」

中谷伸生「台湾の画家陳進に見る植民地美術への問い」

今野純子「ジャワにおける、台湾包種茶の発展と変容― 一九一〇年代から一九二〇年代を中心に―」

比嘉隆「『歴代宝案』にみえる使者の一考察―山北地域と尚巴志王統との関係を中心に―」

卞鳳奎「日本統治時代台湾の初代台北市尹・武藤針五郎の功績」

土肥祐子「南宋後期の胡椒貿易―『数書九章』と『諸蕃志』―」

年旭「英国福州領事と琉球館人の最初の交流」

森谷裕美子「フィリピン・北部ルソンにおける日系人と中国系移民」

山内健太朗「移動させられ続けた人びとによる共同性の再建―戦後沖縄における北谷町砂辺の郷友会の活動に注目して―」

（研究ノート）

森崎成城「「南蛮」と呼ばれる琉球の無釉陶器に関する研究課題―小田静夫著『壷屋焼が語る琉球外史』東京，同成社，2008―からみる」

（新刊紹介）

松浦章『國立故宮博物院蔵　清代琉球史料彙編　其他檔冊（一）上、下』

松浦章『琉球海域史論（上）貿易・海賊・儀礼』、『琉球海域史論（下）海防・情報・近代』

第 90 号　（2022 年 11 月）

（論文）

池谷望子「崇禎の王銀詐取事件」

石黒ひさ子「泉州南外宗正司遺跡出土墨書陶磁器について」

今野純子「一九三〇年代、タイにおける台湾包種茶の諸相―焙煎の「台湾包種茶」から「南港茶」へ―」

松浦章「二十世紀前半における台湾バナナの「満洲国」への輸出」

森谷裕美子「日系人はいかに語られるか―戦前フィリピンへ渡った日系人をめぐって―」

卞鳳奎「蘆洲李氏一族の発展と台湾への貢献」

池田辰彰「日本統治時代台湾ラグビー発展史―関西大学台湾遠征―」

陳明坤「台湾に於ける釉薬の進化と革新」

（研究ノート）

春名徹「南島の古代について－歴史学と考古学の交点で」

比嘉隆「天山陵についての研究」

（書評）

土肥祐子『瀕海之都―宋代海港都市研究』

中谷伸生『文人の系譜－王維～田能村竹田～夏目漱石』

第 91 号 （2023 年 11 月）

（論文）

松浦章「江戸時代における台湾砂糖の日本への流入」

中谷伸生「木村蒹葭堂と東アジアの文人画―《雨中観瀑図》を手がかりに―」

春名徹「東アジア漂流民送還制度下の諸問題―安南を例として」

石黒ひさ子「泉州城遺址（泉州南外宗正司・泉州市舶司）出土墨書陶磁器について」

何其楽「首里城趾出土の明代景徳鎮空白期磁器の研究」

卞鳳奎「明治大学留学生丁惟汾の国家奉仕の業績について」

土肥祐子「宋代の輸入品、薬材について―『宋会要』市舶とイブン・シーナ『医学典範』巻二「単純薬物論」より―」

森谷裕美子「第二次大戦前フィリピンの日本人移民をめぐる「不在の痕跡」」

池田辰彰「日本統治時代台湾ラグビー発展史―台湾総督府鉄道部台北蹴球同好会「鐵團」を中心として―」

樺島彩波「1895 年から 1910 年における台湾総督府の茶業政策―技師・藤江勝太郎と製茶試験場―」

（書評・新刊紹介）

松浦章『境域の近世―慶長戦役後の琉球と薩摩』上原兼善著

松浦章『古琉球史論』比嘉隆著

池谷望子『古琉球の王宮儀礼とおもろさうし』真喜志瑶子著